

Neuro2010 (Joint Conference of The 33rd Annual Meeting Of The Japan Neuroscience Society, The 53rd Annual Meeting Of The Japanese Society For Neurochemistry and The 20th Annual Meeting Of Japanese Neural Network Society)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/25867

『学会見聞記』

**Neuro2010 (第53回日本神経化学学会大会,
第33回日本神経科学大会および
第20回日本神経回路学会大会の合同大会)
に参加して**

Neuro2010 (Joint Conference of The 33rd
Annual Meeting Of The Japan Neuroscience
Society, The 53rd Annual Meeting Of The
Japanese Society For Neurochemistry and
The 20th Annual Meeting Of Japanese
Neural Network Society)

西 谷 真 希

金沢大学大学院医学系研究科

保健学専攻医療科学領域病態検査学講座 博士前期課程1年

2010年9月2～4日にかけて神戸市の神戸コンベンションセンター(神戸国際会議場並びに神戸国際展示場)で開催されたNeuro2010(第53回日本神経化学学会大会,第33回日本神経科学大会および第20回日本神経回路学会大会の合同大会)に参加しました。3学会の合同大会は今回で2回目の開催であり,シンポジウム,一般口演やポスター発表を合わせ総演題数は過去最大となる計2,019演題でした。今大会はテーマに「社会に広がる脳科学」と掲げており,脳科学研究が社会に重要であり,かつ基礎から応用への発展にも力を入れていることが感じられました。開催地である神戸は異国情緒あふれる街であり,本大会の参加者は国内にとどまらず,海外で活躍されている研究者や医療従事者も多く見受けられました。

今回の学会の発表は,分子,遺伝子,細胞,行動,理論など幅広い分野の演題があり,脳神経研究の深さを感じました。私にとっては初めての学会参加の機会に,多分野の発表を聞くことができ大変うれしく思いました。私のポスター発表演題は「ゼブラフィッシュ網膜におけるklf4の発現」というものでした。魚類は中枢神経を損傷しても再生することが知られており,軸索の再伸長が可能です。近年話題になっているiPS細胞は,体細胞に4種類のiPS細胞誘導転写因子(klf4, oct3/4, sox2, c-myc)を導入することで,分化万能性をもたせた細胞のことです。私は視神経損傷後に軸索再伸長因子の転写にこれらのiPS細胞誘導転写因子が関与しているのではないかと考え,魚類網膜でこれらの因子の発現が変化しているかを検討しました。約1時間の発表時間に,たくさんの方が傾聴してくださいました。質疑応答では,私自身の考えを相手に正確に伝えることに苦労しました。予想外な質問をされることもありましたが,自分なりに上手く答えることができたように思います。また今後の実験計画を立てるにあたり,非常に参考になる意見を多くいただきました。

私の発表は2日目でしたので,それ以外の時間はオーラル発表やシンポジウムを聞いて回りました。発表も質疑応答も全て英語で進行していましたので,初めの内はなかなか聞き取れず戸惑いましたが,時間の経過とともに

に不思議と英語が頭に入ってくるようになり,自然と理解できるようになりました。演題には最近話題になっているうつ病など気分障害やアルツハイマー病などの認知障害などが多く目につきましたが,中でも私が興味を持った網膜発生研究,神経前駆細胞や再生に関する演題を中心に聞きました。特に関心を持った演題は「The multiple roles of Pax6 in mammalian retinogenesis」というものでした。Pax6は眼の形成のマスターコントロール遺伝子として発見されました。発生時の脳や眼の形成に重要な役割をする転写因子として知られており,神経前駆細胞に働き系統的に分化させます。Pax6ノックアウトマウスは脳や眼の発生が抑制されます。本発表を行った先生は,発生時のマウスを用いてpax6がどのように網膜細胞の分化を決定しているのか,分子メカニズムを中心に発表されていました。その他にも実験動物として同じゼブラフィッシュを用いている方の発表もいくつか聞くことができました。

2日目には慶応義塾大学医学部生理学教室の岡野栄之先生が座長を務められたランチョンセミナーも開催されていました。先日金沢大学の十全講堂で行われた十全医学会学術集会で岡野先生の講演を拝聴する機会に恵まれました。その際も非常に勉強させていただきました。岡野先生は神経幹細胞に関して,昨年紫綬褒章を受章された方であり,このような方にお会いできて一際感慨深かったです。

初めての学会参加だったこともあり反省する点は多くありました。その一方,自分の言葉で発表するというチャンスをかき,随分成長できました。特にこのような大規模な学会に参加できたことに深く感謝したいと思います。

